

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2023 No.565

1 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



2022年度 第5回理事会 開催される (Web併催)

2022年12月3日(土)午後2時から6時まで、三田国際ビル地下1階会議室で第5回理事会が開催されました(Web併催)。理事会に先立ち、上田会長から同日の午前に開催された臨時総会の報告があり、引き続き定款に基づいた健全な運営に努めていくことや、新型コロナウイルス感染症の拡大が不透明な中、各地域の学術大会などにお招きいただき、会員との交流を通して、本会の運営方針を説明する機会を与えていただいたことへの感謝が述べられました。また来年度に向けた事業計画の説明を行い、会員のためになるような事業展開と、国民の医療に貢献できるような運営を目指していくことを表明しました。

続いて、議題として「(1) 令和5年度事業計画総括案について」に関して、以下の重要10項目『1. 令和3年厚生労働省告示第273号研修』『2. STAT画像報告の運用検討』『3. 研究倫理指針改正対応』『4. 性腺防護の国際動向を踏まえた対応』『5. 組織率向上のための活動』『6. 医療(放射線)安全管理の推進』『7. 2024年度診療報酬改定に向けた調査に基づく要望書作成』『8. ラダーを取り入れた生涯教育制度推進』『9. 第39回日本診療放射線技師学術大会実施』『10. 第40回日本診療放射線技師学術大会(第1回日本放射線医療技術学術大会)準備』——について執行部より説明されました。最後に、令和5年度のスローガンとして“期待される診療放射線技師の役割に答えよう”を検討していること、背景として業務拡大や関係省庁からさまざまな役割について協力要請が来ることが説明され、審議の後、賛成多数で承認されました。



引き続き、「(2) 地域理事会議の設置について」「(3) 委員会委員委嘱について」「(4) 投稿規程改正(案)について」「(5) 内部通報に関する規程(案)について」「(6) 会誌・Network Now入札について」「(7) 第39回日本診療放射線技師学術大会の演題募集について」「(8) 第40回日本診療放射線技師学術大会の開催について」「(9) 会誌目次案・Network Now台割案について」「(10) 入会者・退会者・会費免除の承認について」「(11) 債権回収対象者リストからの除籍について」——について審議され、承認されました。

また報告事項としては、地域理事、各委員会などから40項目に上る報告がなされ、資料と共に共有されました。

長時間にわたり多くの議題や報告のあった理事会でしたが、活発な議論が行われ無事に閉会しました。詳細な内容は、本会会誌に掲載される第5回理事会議事録(抄)をご参照ください。

2022年度 第1回・第2回 医療放射線安全管理責任者講習会 開催される

診療用放射線の安全管理体制について、改正医療法施行規則が2020年4月1日に施行されました。これによりエックス線装置などを備える全ての病院・診療所は、「医療放射線

安全管理責任者」の配置、医療放射線の安全管理のための指針の策定、医療放射線に係る安全管理のための職員研修の実施、保有する指定装置における医療被ばくの線量管理・線量

記録が求められました。また「医療放射線安全管理責任者」については、一定の条件の下、診療放射線技師が対象とされたことは周知の通りです。

そうしたことから本会では、「医療放射線安全管理責任者」を育成するための医療放射線安全管理責任者講習会を2019年度より実施しており、2022年度については11月12日(土)・13日(日)に日本教育会館「第一会議室」で、第1回および第2回医療放射線安全管理責任者講習会を開催致しました。参加者は第1回講習会が40人、第2回が31人でした。講習会の内容は「医療法施行規則一部改正の経緯と日本診療放射線技師会の取り組み」「医療法施行規則及び関連通知」「診療用放射線の安全管理のための指針の作成」「正当化とリスク、放射線障害への対応」「被ばく線量の最適化とDRL」「線量の記録」「患者への説明」「医療放射線の安全管理における放射線機器管理士の役割」「医療被ばく低減施設認定」と充

実した構成で、参加者は熱心に聴講していました。

本講習会を受講された皆さまが、自施設の医療放射線安全管理責任者として活躍していただけることを願っております。

(副会長 江藤 芳浩)



「ラジエーション知識を普及させ安全利活用を推進する議員連盟」第3回会合 開催される

2022年10月31日(月)、衆議院第一議員会館第5会議室において、「ラジエーション知識を普及させ安全利活用を推進する議員連盟(以下、ラジ議連)」の第3回会合が開催されました。畦元衆議院議員がラジ議連の事務局長として司会進行を担当され、ラジ議連会長の田村元厚生労働大臣、三ツ林衆議院厚生労働委員会委員長、自見内閣府大臣政務官、亀岡衆議院議員、松本衆議院議員、山本文部科学大臣政務官、山田参議院厚生労働委員会委員長の他、内閣府・文部科学省からも多くの担当者など、そうそうたる面々がお集まりになる中、会合は始まりました。

会長あいさつの後、ふくしま国際医療科学センターの鷲山准教授より「加速器によるRI製造について」と題する講演がありました。核医学治療法、原子と原子核の基礎、放射能(放射性核種<RI>・放射線<エネルギー>)との関係、加速器の概要とビームの種類やエネルギーに応じて変化する核種の製造などについて解説され、日本の加速器や原子炉の技術を駆使した、輸入に頼らないRI製造について提言されました。

続いて、日本原子力研究開発機構の大井川理事より「原子

炉によるRI製造について」と題する講演があり、高速実験炉「常陽」を用いた医療用RI製造における取り組みの詳細と、研究用原子炉「JRR-3」における中性子照射・ビーム利用について、また革新的ながん治療を実現する創薬に向けたRI製造の可能性など、さまざまな分野における中性子の貢献について紹介されました。

講演の後には、議員各位より活発な質疑応答、意見交換、医療安全への言及があり、大変有意義な議連会合となりました。

最後に、日本診療放射線技師会に意見が求められました。本会からは、現場で起きている直近の重大案件として、海外にあるモリブデン99原料供給元の原子炉トラブルにより、モリブデンの輸入がストップしたことと、それに伴い国内でのテクネチウム99m製品による検査ができなくなる事態が発生していることを伝えました。検査を担当する診療放射線技師の立場から、医療製剤を海外に頼ることへの不安と必要な患者さんに検査ができないことへの苦悩を訴えました。

将来的に国内でRI製剤の製造が可能になるよう、畦元厚生労働大臣政務官のさらなるご活躍に期待します。



「あぜもと将吾君を励ます会」開催される

2022年11月10日(木)、ANAインターコンチネンタルホテル東京で「あぜもと将吾君を励ます会」が開催されました。多くの国会議員や医療関係団体の先生方、医療メーカーや支援者の方々など、150人近くの参加がありました。

会の中で畦元氏より、

- ①医療においては、患者さん中心の医療がチーム医療として実現できるように、それぞれの医療団体の問題点対策・環境改善・待遇改善などを実現するために全力で頑張ります。
- ②福祉や労働にも力を入れて、ご期待にお応えできるように頑張ります。
- ③診断および治療用RI（ラジオアイソトープ）の国内製造の促進、新規RI治療法の推進にも力を入れていきます。



—などのお話がありました。

時間が30分以上延長したにもかかわらず、ほとんどの方々が最後まで参加され、盛会のうちに終了しました。



日本医学会総会2023東京博覧会に出展します！

INFORMATION

放射線医療のことを、国民の皆さまにもっと知っていただくため、日本診療放射線技師会は放射線医療関連団体と共に、2023年4月開催の「第31回日本医学会総会博覧会」に出展します。皆さまもご家族と一緒にご参加ください！

展示会 会期：2023年4月20日(木)～23日(日)

会場：東京国際フォーラム ホールE

<https://isoukai-expo.jp/>

出展団体：日本ラジオロジー協会（JRC）、
日本医学放射線学会（JRS）、日本放射線科専門医会・医会（JCR）、
日本診療放射線技師会（JART）、日本放射線技術学会（JSRT）、
日本磁気共鳴学会（JSMRM）、日本IVR学会（JSIR）



第14回中部放射線医療技術学術大会 開催報告 (Web併催)

第56回日本放射線技術学会中部支部学術大会
第30回中日本地域放射線技師学術大会

公益社団法人愛知県診療放射線技師会
会長 水口 仁

2022年11月5日(土)・6日(日)、愛知県名古屋市にあるウインクあいち(愛知県産業労働センター)で第14回中部放射線医療技術学術大会〔第56回日本放射線技術学会中部支部学術大会ならびに第30回中日本地域放射線技師学術大会の合同開催〕が開催されました。今回で14回目となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年は延期、2021年はWebのみの開催となり、3年ぶりに会場型で開催することができました(Web併催)。久しぶりの会場型開催ではありませんが参加登録者数は720人(うち学生が100人ほど)で、会場参加が500人以上と、多数の方に参加していただきました。

大会テーマに「実践知への探求 放射線技術学のリテラシー」を掲げ、さまざまな企画を用意致しました。特別講演では、名古屋市立大学大学院 医学研究科放射線医学分野 教授 樋渡昭雄先生に「脳腫瘍画像診断における最近のトピックスー神経腫と転移性脳腫瘍を中心にー」と題してご講演を賜りました。また特別企画として日本診療放射線技師会 上田会長、日本放射線技術学会 白石代表理事に「診療放射線技師



大会長あいさつ

閉会式(学術奨励賞)

教育のリテラシー」をテーマにご講演を賜りました。その他にもシンポジウム、教育セミナー、JARTの検査説明委員会・業務改善推進委員会、県民公開講座などさまざまな視点で講演をしていただきました。一般演題は110演題の応募があり、その中から優れていた演題に日本診療放射線技師会から学術奨励賞1人が、大会から第14回中部放射線医療技術学術大会賞6人が選ばれました。

今回の大会は、日本診療放射線技師会と日本放射線技術学会が合同で作成した参加登録システム(JJRS)を使った初めての運用となりました。運用開始が大会の3週間前で事前参加登録も短期間での登録となり、参加者にはご迷惑をお掛けしました。若干の不具合はありましたが大きなトラブルもなく運用することができました。

最後になりますが、本大会の開催にご尽力いただきました國友大会長をはじめ実行委員の皆さま、協賛企業の皆さまに、心より感謝申し上げます。

第12回東北放射線医療技術学術大会 開催報告 (ハイブリッド開催)

一般社団法人新潟県診療放射線技師会
会長 小林 功

2022年11月19日(土)・20日(日)の2日間、日本診療放射線技師会の児玉直樹副会長と日本放射線技術学会の市田隆雄副代表理事にご臨席いただき、第12回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2022)が新潟市の朱鷺メッセを会場として開催されました。新潟県診療放射線技師会は、JARTとJSRTでの地域割りが異なるため、TCRTには協賛というかたちで参加しています。

大会テーマは「今そしてここからのあゆみ」とされ、コロナ禍でいろいろなことが止まっているこの時期をチャンスと捉えて、自身の足元を見つめ直し、放射線技術の基礎を改めて考えようという思いが込められました。企画内容としては、特別講演、実行委員会企画シンポジウム、JART・JSRTそれ



実行委員

ぞれからの13企画と合同の1企画、一般演題84演題、ランチョンセミナーなどの企業セミナー、企業展示と多彩な内容をそろえ、東北地域最大の学術大会として従来の対面形式に近いかたちのハイブリッド形式で進められました。

多数ある企画の中でも、一般演題が特に重要視され、84演題が会場発表を基本として企画されました。研究結果を壇上

で発表し、議論をして、それをまた自身の糧にしていくという作業は、将来の放射線技術学の礎を築くために歩み続けることにつながり、多様な業務を抱える診療放射線技師のバトンを発展させながら次世代につなぐための、教育的なコンテンツの側面を持つという大会長の考えによるものですが、これが対面開催を行う基本方針となりました。また特別講演では、新潟大学大学院医歯学総合研究科 救命救急医学分野の西山慶教授による「数学がキライな人のための人工知能講座」が行われました。救命救急医師と人工知能の意外な組み合わせでしたので、大変興味深く拝聴しました。シンポジウムは「STAT～命を救うための技術と次の一步～」と題して、5マダリティーの観点から活発な議論がなされました。

11月の新潟は、食について最も自然の恵みを受ける時期です。このような時期に会場参加者が445人、Web参加者が169人の計614人という多数の方にご参加いただきました。

第17回九州放射線医療技術学術大会 開催報告

第71回日本放射線技術学会九州支部学術大会
第68回九州放射線技師学術大会

公益社団法人日本診療放射線技師会九州支部

2022年11月19日(土)・20日(日)の2日間、本会上田会長と日本放射線技術学会梁川副代表理事ご臨席の下、福岡県のアクロス福岡において第17回九州放射線医療技術学術大会〔第71回日本放射線技術学会九州支部学術大会・第68回九州放射線技師学術大会〕が開催されました。

大会テーマは「The Origin 拡張する職域と放射線技術学の進化」です。今回は、感染防止対策を講じた上で現地開催となりました。企業展示や、この大会では3年ぶりとなる情報交換会も開催されました。

大会内容の一部をご紹介します。

◎特別講演

「放射線診療とAI」

飯塚病院 放射線科部長 佐々木 智成 先生

◎市民公開講座

「With コロナの医療の話 -コロナ禍で日本の医療はどう変わる? どう変える?-」



受付の様子



梁川副代表理事と上田会長



式典の様子

新型コロナ第8波の入り口となる時期に、多数の方に集まっていただけで、東北地域の一体感を得られた大会でありました。来越された皆さま、ありがとうございました。

最後になりますが、本大会にご尽力いただいた金沢勉大会長、能登義幸実行委員長をはじめ実行委員の皆さま、協賛企業の皆さまに、心より感謝を申し上げます。



実行委員

九州医療センター 広域災害・救命救急センター長
野田 英一郎 先生

◎実行委員企画

「タスク・シフト/シェアによる診療放射線技師の業務拡大の実際」
日本診療放射線技師会 会長 上田 克彦
埼玉県済生会川口総合病院 富田 博信

◎ハンスオンセミナー

- ①中外テクノス株式会社共催：ソフトロンボードを用いた補助具の作成
 - ②テラリコン・インコーポレイテッド共催：3D-WS実機を用いた3D画像作成のセミナー
- 参加登録者数は634人でした。

最後になりますが、本大会の開催にご尽力いただきました大浦弘樹大会長、中村泰彦実行委員長ならびに実行委員の皆さま、協賛企業の皆さまに、心より感謝とお礼を申し上げます。来年度は大分県での開催となります。

レントゲン週間 イベント開催される



本会では、1895年11月8日のW. C. レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～11月8日の一週間を『レントゲン週間』と制定しています。

この『レントゲン週間』にちなみ、放射線の専門家として正しい知識を国民に伝えるとともに、私たちの仕事を知っていただくためのイベントとして、本年度も各県（診療）放射線技師会の協力を得て、各地でさまざまなイベントが開催されました。

KAGOSHIMA

第39回市民健康まつり

2022年10月30日（日）、爽やかな秋晴れの下、西原商会アリーナ（鹿児島アリーナ）で第39回市民健康まつりが行われました。市民健康まつりは鹿児島の10の医療関連団体が主催する歴史のあるイベントです。コロナ禍の影響でここ2年はオンラインでの開催となっていました。今年度は3年ぶりに対面での開催となりました。

主催団体の一つである私たち鹿児島県診療放射線技師会では、レントゲン週間イベントとして骨密度測定や展示、放射線相談などの催し物を行いました。

コロナの影響やいくつかのイベントと日程が重なっていたこともあり、今年度の来場者は少ないのではないかと予想していましたが、しかし、ふたを開けてみると、骨密度測定はイベント開始直後から列ができ始め、11時ごろには約1時間待ち、午前中には200枚準備していた骨密度の説明資料を入れるJARTのクリアファイルがなくなりました。イベント終了時刻直前まで順番待ちの列は途切れることがなく、大盛況でした。市民の方からの「ここ2年間、対面でのイベントが行われなかったため、骨密度測定を待ち望んでいました」という声をじかに聞きました。最終的には482人の方に骨密度測定を行いました。かかとで測定するタイプの骨密度装置2台で検査を行ったので、しゃがんで測定しなければならず、担当したスタッフはさすがにキツかったそうです。



展示ブースでは、医用画像ギャラリー、乳がん触診モデルを使った乳がん触診体験、線量計（GM管）を使っての乾燥昆布や減塩しお・カリ肥料など、身近なものから出る放射線の計測体験、放射線相談を行いました。ドラマ『ラジエーションハウス』の影響もあってか、展示ブースにも多くの方に来ていただき、積極的に体験に参加されたり、熱心にポスターをご覧になっていました。お孫さんが診療放射線技師学校の学生だという方や、鍼灸師になりたての方、ドラマ『科捜研の女』

のような仕事をしていらっしゃるという方など、市民の皆さんと楽しくお話をさせていただきました。

放射線相談の依頼はなかったのですが、医用画像を見ながら、「実は私の病気のことなのですが…」とご自身の病気のことを話されたり、「CTとMRIはどっちがいいの」と画像検査の特徴を聞かれたり、放射線測定体験では「放射線は単位が多いよね。以前、インターネットで勉強したのだから分らなかったのだから教えてほしい」とお願いされたり、放射線を使用する検査の被ばく線量や、どれくらい放射線を浴びたら危険なのか教えてくださいという方もいらっしゃいました。乳がん触診体験では、身内の方の乳がんの話から、乳がんを見つけるための検査はどれを受けた方が良いのかという質問もされました。展示や体験が話すきっかけとなり、対面で相談するより話しやすかったのかかもしれません。展示ブースにも135人の方に足を運んでいただきました。



今回のイベントは16人のスタッフで行いました。コロナ禍で大規模なイベントには参加できないとする医療機関が多かったこともあり、スタッフの募集には苦労しました。当初はスタッフが4人しか集まらず、イベントの規模縮小も考えました。そんな中、鹿児島県診療放射線技師会の会員の皆さまに協力していただきました。鹿児島市のイベントにもかかわらず、市外の会員の皆さまにもスタッフとして快く参加していただきました。本当にありがとうございました。

（公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会
担当理事 浮田 啓一郎）



AKITA (Web併催)

医療放射線画像展 2022・Web 公開講座を開催！

例年、秋田県診療放射線技師会ではレントゲン週間のイベントとして、広く県民の皆さまに診療放射線技師を認知していただくため、私たちの業務を紹介するポスターパネルを秋田駅自由連絡通路に展示し、併せて市民公開講座を開催しています。

今回は「医療放射線画像展 2022～ようこそ、リアルラジエーションハウスへ～」と題して、2022年11月12日(土)、パネル展示および主に中高生や保護者へ向けたWeb 公開講座を開催しました。



パネル展示は、会場の耐震工事の影響で展示スペースを縮小しなければならず、ポスターパネルを厳選する必要があり、うまくメッセージが伝わるか不安でしたが、予想を上回る反響で喜ばしい限りでした。今回はコロナ禍ということもあり、積極的にお声掛けすることは控えましたが、老若男女問わず、通行中の一般市民の方々が足を止めてじっくりとご覧いただき、技師会スタッフに質問をされる方も多く見受けられました。腹部CTアンギオの画像をご覧になっていた方は「これはどの部分で、どういう症状なのでしょう。自分の身体に同じようなことが起きて検査できるものですか?」というご質問や「放射線治療に興味があるので、教えてください」という方、「将来の進路に考えています。養成校のことや仕事の内容について興味があります」という高校生と保護者などからさまざまなご質問を頂きました。また質問がなくても、展示パネルを1枚1枚じっくり時間をかけてご覧いただいた方も数多く、テレビドラマや映画・漫画などの影響も相まって、年々、一般の方々の認知度が上がってきている印象を受けました。ただ、中には質問をちゅうちょしているのではと思えた方もいらっしゃったので、願わくはコロナ禍が落ち着き、次年度以降は積極的にお声掛けさせていただき、もっとアピールできるようにしてほしいと思います。



同時に開催したWeb 公開講座では「診療放射線技師って? おしえてセンパイ!!」と題して、将来の進路として考えていたり、興味を抱いている中高生や保護者および市民の方々に事前登録を募ってご参加いただき、養成校の紹介や習得科目、国家試験などについての紹介、ならびに入職1~4年目の県若手会員3人から、志望のきっかけや学生時代の様子、入職してからの状況などの実体験を詳細に紹介していただきました。中高生にとって年齢の近い会員からのリアルなお話であったため、これからの進路を考えるに当たり、イメージがしやすかったのではないかと考えています。



参加された方々のアンケート回答(原文のまま)では「診療放射線技師を目指しているのでも参考になりました! ありがとうございます!」「年の近い診療放射線技師の大学での生活や普段の仕事の話など、普段聞けない話を聞いて面白かったです」といったうれしいリアクションがありました。ただ、反省点として、使用したミーティングツールがスマホからの使用方法が分かりづらく、参加の意思があってもかなわなかった方もおられ、今後の検討が必要と感じています。

私たち診療放射線技師の置かれている環境は近年目まぐるしく変化しているため、国民に見える職業、貢献できる職業としてより認知していただけるよう、今後もアピールしてまいります。

今回の医療放射線画像展開催に際し、講師をお引き受けいただきました会員の皆さま、当日、ボランティアでお手伝いいただきました理事・監事の皆さま、イベントスタッフの皆さま、準備にお力添えいただいた理事の皆さまに、この場をお借りして謝辞を申し上げます。

今後もより一層、県民の皆さまに良質な医療を提供できるよう努めてまいります。

(公益社団法人秋田県診療放射線技師会

担当理事 秋田労災病院 岩根 敦)

INFORMATION

第3回 第39回日本診療放射線技師学術大会 (39th JCRT)
第30回東アジア学術交流大会 (30th EACRT)

熊本への道 Go To KUMAMOTO

副大会長 田上 真之介
(一般社団法人熊本県放射線技師会 副会長)

会場周辺の観光施設

前回、皆さまをお迎えする会場について紹介がありました。前述の通り、第39回日本診療放射線技師学術大会の会場である熊本城ホールは、熊本桜町パスターミナルに直結しているため県内のさまざまなエリアへアクセスの良い施設です。今回は会場周辺の徒歩5分圏内の観光施設について紹介したいと思います。

まず、最もメジャーな施設は熊本城です。熊本地震で大きな被害を受け、6年が経過した現在も復興の途中であり、崩壊した石垣を眼下に眺めることができます。画像は被災直後の熊本城です。当時は全てのエリアが立ち入り禁止となっていたため、隣接の二の丸公園から撮影したものです。現在は復旧工事の様子を見学できる特別見学通路が設置されており、復興作業が完了すれば二度と見ることでできない姿を間近に見学することができます。痛々しい姿ではありますが、力強く崩れずに堪えている姿をぜひ一度ご覧ください。

熊本城の麓には「桜の馬場 しょうさいえん 城彩苑」という観光施設があります。熊本の特産品の食べ歩きやお食事・お土産処ですので、学会の休憩時間に散策されてはいかがでしょうか。

少し足を延ばすと、童謡(童歌)で有名な「あんたがたどこさ」に登場する船場橋(洗馬橋)があります。あまりメジャーではないスポットですので、狸の像との記念撮影なども楽しめると思います。すぐそばの熊本中央郵便局のポストの上にも狸像が鎮座しており、季節に応じた衣装を着ています。その衣装は郵便局員さんがボランティアで制作されているそうですので、学会開催期間の衣装をお楽しみください。

今回の学会は、Web開催と現地開催のハイブリッド開催で、国際セッションや情報交換会も久しぶりに開催する予定です。感染状況に伴い計画の変更を余儀なくされる可能性はありますが、実行委員一同、熊本は楽しかったなぁと感じていただけるような学会になるよう準備してまいりますので、ぜひとも現地熊本にお越しください。多くの皆さまに目に掛かることを、実行委員一同、楽しみにしております。





第39回 39th Japan Conference of Radiological Technologists

日本診療放射線技師学術大会

会期

2023年9月29日[金]～10月1日[日]

会場

熊本城ホール

[ハイブリッド開催]

〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町3-40

会長

上田 克彦

[公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長]

大会長

西小野 昭人

[一般社団法人 熊本県放射線技師会 会長]

主催

公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催

一般社団法人 熊本県放射線技師会

後援

厚生労働省/日本放射線技術学会

(予定)

熊本県/熊本市

～タスク・シフト/シェアに伴う業務拡大を推進しよう～

復興の地から はじまる

技術革新



©尾田栄一郎/集英社

熊本地震から復興に向かう熊本に対して尾田栄一郎氏から「必ず助けに行く」というメッセージをいただき「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」が立ち上がりました。復興が進む熊本で学術大会を開催するにあたり、地震からの復興を応援するために「ONE PIECE 麦わらの一味」の銅像を使用させていただきました。

大会事務局

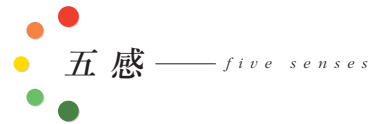


一般社団法人熊本県放射線技師会

〒861-8528 熊本県熊本市東区長嶺南2-1-1 日本赤十字社熊本健康管理センター 放射線課内 TEL・FAX (096)386-1388

サッカーワールドカップから思うこと

シリーズ連載
series serialization



FIFAワールドカップ2022カタール大会が11月末に開幕された。1993年にアジア地区最終予選で因縁の地となったドーハを首都とする国だ。初戦のドイツ戦は感動的な逆転勝利でドーハの悲劇は「ドーハの歓喜」に置き換わった。当時のメンバーでもあり広島で選手・監督を務められた森保一代表監督（通称ばいち）の積極的な選手交代や、広島から海外に移籍した浅野拓磨選手（通称ジャガー）の活躍などで、歴史に残る素晴らしい勝利に酔いしれた。残念ながら第2戦は敗れたが、その数日後、無敵艦隊スペインとの決戦でも逆転勝利を収め、グループ1位で決勝トーナメントに進出できた。私を含めて早朝から応援された皆さま、本当におめでとうございました。本紙が発刊されるころにはすでに優勝国は決まっているが、果たして結果やいかに。

サッカーだけに限らず、スポーツにはチームワークや指導者が重要である。同じように複数の医療従事者と共に働くわれわれも、チーム医療が導入されてチームとして多方面で医療を支えている。チーム医療は、医療の効率性の向上による医療従事

者の負担の軽減や、医療の標準化・組織化を通じた医療安全の向上が期待される。放射線を取り扱える唯一の職種である診療放射線技師は、より診断しやすい画像の撮影、処理画像の提供、診断画像を使った治療戦略に関係するアドバイスや提案など、多職種との連携や密なコミュニケーションが重要になる。

加えて、チームの最大限のパフォーマンスを発揮するためには、一人一人の頑張りも必要であるが、チームをけん引し、正しい方向に導くための良い指揮官としてのリーダーや指導者の役割も重要である。昔は年功序列で偉くなって自分の権力を振りかざすような方も多々いらっしゃったが、今の時代では当然受け入れられない。現在の理想の上司は、「親しみやすい」「頼もしい」「スマート」が必要とされているようだ。

時代の流れとともにリーダーの在り方も当然変化していくのである。「変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」という名言もある。さて、自分を振り返ると識別できているであろうか。疑惑の念は拭えない。 (文責：木口 雅夫)

1月・2月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 骨関節撮影分科会セミナー：	Web開催	2023年1月27日(金)
■ 画像等手術支援認定講習会：	Web開催	2023年1月29日(日)
■ 放射線機器管理地域研修会（福島県）：	福島	2023年2月11日(土・祝)
■ 放射線取扱主任者定期講習：	東京	2023年2月17日(金)
■ 放射線治療分科会生涯教育セミナー（治療計画・乳房編）：	福岡	2023年2月18日(土)
■ 消化管造影セミナー：	Web開催	2023年2月21日(火)
■ 災害支援認定診療放射線技師講習会：	兵庫	2023年2月26日(日)

【受講には下記の事前e-ラーニング学習が必須となります。】

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

[e-ラーニング (ストリーミング方式)]

■ 災害支援認定診療放射線技師講習会（事前e-ラーニング学習）	2023年1月29日(日)午後23時59分まで申し込み受け付け 視聴期限は2月25日(土)まで。視聴開始日は別途お知らせ致します。
■ 告示研修（基礎研修）	2021年7月31日(土)午前0時から申し込み受け付け ※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。

「業務拡大に伴う統一講習会」「診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型)」「告示研修(実技研修)」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/2022_schedule.html
- 「診療放射線技師基礎講習 基礎技術コース(会場型)」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000081c3.html
- 「告示研修(実技研修)」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/kokuji_schedule_2022.html

JARTISから領収書の発行が可能になりました！

INFORMATION

会費、講習会、セミナー、学術大会の費用・参加費について、会員ご本人による領収書の発行が会員情報システム(JARTIS) から可能になりました。詳細は、会誌1月号P14・お知らせをご参照ください。

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。